

ひまわり在宅サポートグループ

佐藤 美智代(看護師/デイサービス)

功 績 日本一短い手紙コンクール「一筆啓上賞」に応募し、見事大賞に選ばれ地元新聞や主催者HPに掲載され、多くの人に感動を与えた功績。

推 薦 者 阿部 朗(所長/デイサービス)

推 薦 理 由 一筆啓上賞に入選した事で、私達も普段からご利用者に接している言葉1つが、心の支えになる事の大切さを感じさせられました。
今回の入選で主催者HP掲載や地元新聞に大きく取り上げられ、周りに感動を与えてくれた佐藤美智代を理事長賞に推薦致します。

内 容

日本一短い手紙コンクール「一筆啓上賞」(福井県坂井市・公益財団法人丸岡文化財団主催)で国内外から4万通が寄せられた中から、大賞5通に選ばれた。今回のテーマの「先生」にちなみ、障害のある娘を出産した佐藤に言葉をかけてくれた、かつての勤務先の病院の医師に向けて言葉をつづった。

佐藤の手紙には

「《巡り会いだね》障害のある子を生んだ私に言ってくれました。今年十八になります。」

長女には、出産時に脳性まひが残り、佐藤は勤めていた病院を退職し、産後に父親の診察の為、長女を連れてかつての勤務先の病院を訪れた際、医師から「巡り会いだね」など言葉をかけられた。当時、障害を受け入れてはいたが悲しみが大きく、医師から掛けられた言葉に、長女の入学や卒業などの節目の度に思い出す言葉になった。今回、長女が高校を卒業するにあたって、その医師が浮かび、手紙をつづった。しかし、医師は数年前に亡くなり、産後に会った「巡り会いだね」と声を掛けられた時が最初で最後だった。佐藤も「先生にありがとうを伝えようと、あまり悩まずに書いた。手紙への思いを察してもらう事が、これだけ感動をもらえるんだと嬉しくなった」

言葉は長さではなく、短くても相手を思う気持ちがあれば伝わる事の重要性を教えられました。今後は、ご利用者に感動を与えられる言葉をかけられるように施設全体で取組んでいきたいと思ひます。